

東京都江戸東京博物館紀要 第5号

目次

口絵	口絵
江戸城二丸御殿	畑 尚子 1
「浅草紅団」の世界	湯川説子 33
今戸焼 土人形の寄贈とその関係資料に関する覚書	小林 克 47
書簡集から建築活動をたどる－建築家ヤン・レツルについて	菊楽 忍 59
【小特集】武蔵野郷土館の活動と考古学	松井かおる 87
第1部「武蔵野郷土館と考古学」	89
「武蔵野博物館と武蔵野郷土館」	加藤 功 91
「武蔵野郷土館の資料の魅力」	土井悦枝 97
「武蔵野郷土館と考古学」	坂詰秀一 103
第2部「武蔵野郷土館における発掘調査と考古学」	132
「50年前の武蔵野郷土館－特色ある年間行事と屋外施設－	岡田淳子 133
鼎談「武蔵野郷土館における発掘調査と考古学」	149
	岡田淳子、坂詰秀一、川崎義雄
人宿米屋田中家の「年中行事」と経営サイクル	市川寛明 171 (80)
川村清雄と越後の素封家の娘－真説「悲惨なる画家の半生」－	落合則子 250 (1)

表紙図版：川端康成『浅草紅団』 先進社 発行 吉田謙吉 装丁 (92530001)

「浅草紅団」は、浅草の不良少年少女を中心に、関東大震災後の浅草の風俗を描いた作品。学生時代より浅草に親しんだ作者・川端康成が、土地の伝説や震災以前の歴史もふまえ、昭和初年の活きた浅草の姿を写した、先駆的な都市小説である。

昭和5年(1930)に刊行された単行本は、吉田謙吉の装丁。本作品に登場したことで興行成績が上向きになったというカジノ・フォーリーの幟や、地下鉄食堂の尖塔といった新名所も配し、時代の雰囲気をよく伝えている。「浅草紅団」についての詳細は、湯川論文を参照されたい。

表紙の地紋は、当館所蔵の国指定重要文化財「萌葱練縦地菖蒲花文小紋染胴服(徳川家康着用)」(98200135)の小紋文様をもとにしたものである。

尚、本紀要において8桁の算用数字表記がある場合、特に断りがない限り館蔵資料番号を表すものとする。

表紙の地紋は、当館所蔵の「萌葱練縦地菖蒲花文小紋染胴服(徳川家康着用)」(98200135)の小紋文様をもとにしたものである。

Bulletin of the Edo-Tokyo Museum No.5

CONTENTS

Frontispiece	Frontispiece
Ninomaru Palace of Edo Castle	HATA Hisako 1
World of “The Scarlet Gang of Asakusa”	YUKAWA Setsuko 33
Memorandum regarding the donation of imadoyaki clay dolls and its related materials	KOBAYASHI Katsu 47
Follow the architectural activities from collection of letters – About the architect Jan Letzel	KIKURAKU Shinobu 59
[Special topic] Activities of Musashino Museum and archaeology	
Part 1 “Musashino Museum and archaeology”	
Part 2 “Excavational investigation by Musashino Museum and archaeology”	
“Musashino Museum of 50 years ago — Distinctive annual events and open-air facilities —”	
Three — man talk “Excavational investigation by Musashino Museum and archaeology”	MATSUI Kaoru 87
Annual Events and management cycle of an Employment Agency, komeya Tanaka House.	ICHIKAWA Hiroaki 171 (80)
Kiyo’o Kawamura and a daughter of a wealthy family in Echigo Province — The True Story of “Miserable lifetime of a painter” —	OCHIAI Noriko 250 (1)